



▼建設中のスカイウェーが、中央の県立近代美術館から芸術文化ホール（左）とアトリウム（右）へそれぞれ延びている



平成5年夏一部完成

スカイウェー

● 冬でも楽々の立体遊歩道

アトリウムに先立ち、昨年七月からスカイウェーの建設も進めています。このスカイウェーは、地上から床面までの高さ六・八㍍、幅三㍍の屋根つき遊歩道で、アトリウムと県立近代美術館、現在準備を進めている芸術文化ホール、ハイブ長岡の四つの施設を順次結んでいくことにしています。

さしあたり、この夏の近代美術館のオープンに合わせ、美術館からアトリウムへ、また美術館から芸術文化ホールへの双方へ伸びる百五十一・二㍍の区間を整備します（上図参照）。

さらにその後は、芸術文化ホールの建設に合わせてスカイウェーを延長し、その先のハイブ長岡にも接続して工事が完了となります。

スカイウェーは、全天候型の歩行者空間。雪や雨が降っていても、足もとを気にすることなく千秋が原の各施設を見回すことができます。また、雪の落下などの危険を防ぐため、屋根に融雪ヒーターを設置することにしました。

千秋が原を、冬でもたくさんの人が集まつてくるような、にぎわいとうるおいのある広場、野外音楽堂などに囲まれるアトリウム。平成6年4月にお目見えします。どうぞお楽しみに。

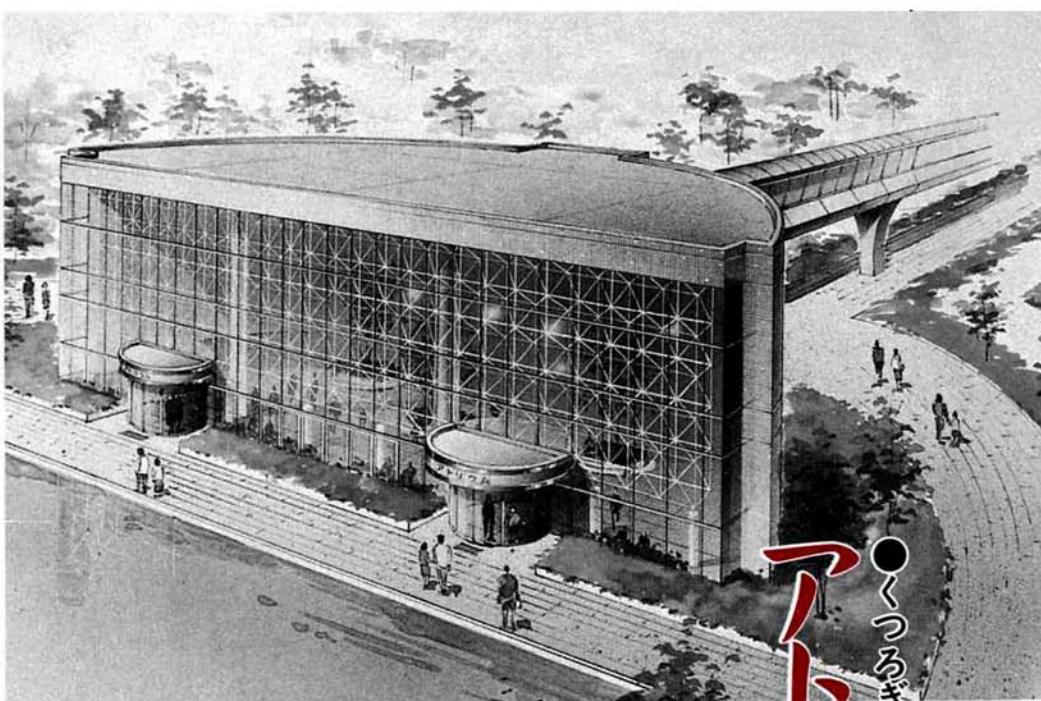


ハイブ長岡の建設以来、年々その姿を変えていく千秋が原ふるさとの森。この夏には、県立近代美術館のオープンを控え、さらにその美術館の周辺では、新しい施設の建設工事が順調に進んでいます。やすらぎとくつろぎの室内空間「アトリウム」と立体遊歩道「スカイウェー」です。これらの施設にはどんな特徴があるのか、その内容を紹介しましょう。

千秋が原ふるさとの森で ユニークな施設を建築中です



▲アトリウム完成予想図。北側は、近代美術館とスカイウェーで結ばれる



平成6年4月完成

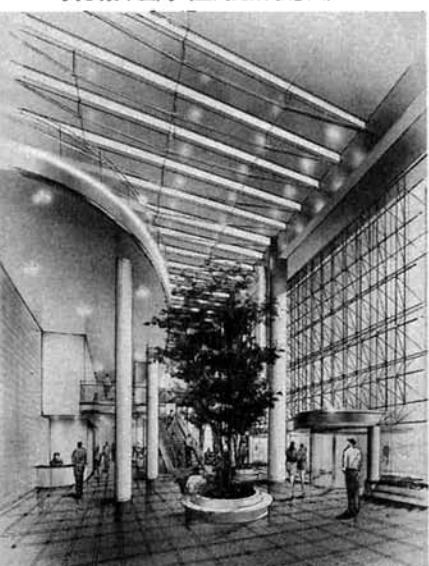
アトリウム

●くつろぎの室内空間

この一月から造成工事が始まりました。アトリウムは、鉄骨筋コンクリート造り一階建ての吹き抜けで、高さ約十一㍍、直径約四十四㍍の半円柱型。正面の南側は、全面ガラス張りで、一年中自然の光を取り入れることができる構造になっています。

一階には、熱帯植物や観葉植物などを計十四カ所に配置。また室内の温度を、夏は二十六度、冬は十八度にそれぞれ設定するなど、快適な環境づくりを考えています。また一階には、ちょっととした展示会などを開くことができるスペースもあります。

▼アトリウムの中はゆったりとした吹き抜け空間（室内完成予想図）



ハイブ長岡や近代美術館を訪れたあとでちよつと一息ついたり、千秋が原にハイキングにやつてきた子どもたちがお弁当を広げて一休みしたり……。このように、主に休憩利用される空間というのは今までなく、とてもユニークな施設だといえるのかもしれません。

やすらぎとくつろぎの室内空間アトリウムは、みんなが気軽に立ち寄れる施設です。



▲東北中学校で

市内中学校で パソコン授業始まる

平成三年度から市内の中学校でコンピュータ教室を整備しています。市では、平成五年度で市内十五校全部の整備を終わる予定です。

ところで生徒たちは、パソコンを使ってどんな勉強をしているのでしょうか。既にパソコンが導入された東北中学校の技術・家庭科の授業をのぞいてみました。

東北中学校ではいま、三年生が週に一回パソコン授業を受けています。

最初にコンピュータの基本を習い、次にワープロ機能でキーボードの操作を覚えました。また、先月はパソコンで絵をかいたり、その絵に色を塗つたりして年賀状を作ったということです。

そして、今日習うのは表計算です。授業が始まるとにぎやかだった生徒たちも真剣に画面とにらめっこ。二人一组で一台のパソコンを使い、相談しながら入力していきます。



◇ ◇ ◇

「このパソコン授業、まだめずらしいせいか、みんな夢中でやっています。授業が休みになつたりすると、残念がる生徒も多いのですよ」とは授業を受け持つ武田先生。実は、先生も市の教育センターの研修を受けたり、自分で勉強したりと奮闘しているそうです。

生徒たちにとっては、これから長い付き合いになるコンピュータ。今のうちに、その楽しさと可能性を知つてもらいたいと、先生の授業にも熱が入っていました。

春から秋までは、ミニトマトなどを植え、もぎとり体験やトマトジュースづくりに利用します。このほか温室を使つて、実際どんな農作物が作れるのかを研究する展示園を使つたり、セントーを訪れる人たちに販売したりします。

ふるさと体験農業センターに農畜産物加工体験棟、農業実習研修棟、市民ふれあい農園(続いて温室棟)、「ふるさと体験温室」が完成しました。

ふるさと体験温室が完成しました



●ふるさと体験農業センター利用案内●

つくれるもの=〔農畜産物加工体験棟〕…みそ、とうふ、そば、赤飯、ジャム、ジュース、缶詰、ハム、ソーセージ、乳酸飲料、バター、クリームほか〔農業実習研修棟〕…繩、ぞうり、竹馬など(昔の農具や民具も展示) 利用時間=午前9時~午後10時(月曜休館) 利用料金=材料費のほか設備使用料として原料1袋あたり50~100円 申込み=ふるさと体験農業センター☎34-5360へ

広さ二百十平方㍍の温室二棟で、冬期間はここで花苗や切り花を作ります。この花苗や

信濃川の土手を散歩したことがありますか。

土手を散歩すると、ジョギングする人、楽器の練習をする人、野鳥観察する人、サイクリングやスポーツを楽しむ人、いろんな人に出会えます。

それから朝もやの中に浮かび上がる長岡のまちを見たところ、西山連峰に落ちる夕日を見たときの、あの感激。独り占めするのがもったいないほど、素晴らしい景観です。

近く、雄大な信濃川や美し

い長生橋を眺めるのに最適で

す。そこで、木レンガ敷きの

広場には、ゆっくり休息でき

るよつにベンチや水飲み場を

設けます。

また、シンボルツリーを植

えたり、斜面を花で飾つたり

と、人々をやさしく迎える場

所として整備します。

二ヵ年事業で、完成予定は

平成六年四月。妙見堰

広場、そして今回



ちょうどこの辺りは、堤防が水面



にそつて、いま大手大橋東詰広場の整備を進めていま

す。このふれあいとやすらぎの空間を、自然を生かしながら整備し、未来に伝えていくこう

というのが長岡市信濃川景観整備計画です。この計画

り占めするのがもつたないほど、素晴らしい景観です。

長生橋東詰広場、そして今回整備する大手大橋東詰広場に統いて将来は藏王橋の橋詰めも整備していく計画です。

平成六年四月。妙見堰

広場、そして今回

所として整備します。

二ヵ年事業で、完成予定は

平成六年四月。妙見堰

広場、そして今回

所として整備します。

二ヵ年事業で、完成予定は

平成六年四月。妙見堰

広場、そして今回

所として整備します。

二ヵ年事業で、完成予定は

平成六年四月。妙見堰

大手大橋東詰広場の建設に着手

ハイテックプラザN 最新鋭の試験機器導入で地域技術の高度化を後押し

長岡市が出資している財信濃川テクノポリス開発機構の開放試験室に四台の先端的な試験機器が導入されました。

試験場所は、新産四丁目の長岡地域技術開発振興センター(ハイテックプラザN)のなか。

今回導入されたのは、金属片などの表面の状態(粗さや形状)を三次元的に測ることのできる非接触平面度粗さ形狀測定器、ドイツ製で最大一万六千倍まで鮮明に解像する走査型レーザー顕微鏡など、最新鋭の研究試験機器四台です。平成五年度には、さらに三台を導入し、計七台を設置します。

これらの先端的な試験機器を導入したのは、地域企業の技術の向上を図るのがねらいです。去年完成したレーザー応用工学センターなどとともに、テクノポリス地域企業の研究開発を積極的に支援して

います。

これらの機器の利用希望者は

市では「炭酸ガスレーザー加工機による切断精度」をテーマに講習会を開催します。

第一回利用者登録の締め切りは二月十五日(月)。お問い合わせは、財信濃川テクノポリス開発機構☎46-971-1まです。

日時は二月十七日(水)午後3時から5時。会場は長岡市教育センター。講師は三菱電機名古屋製作所・金岡優さん。定員50人。参加料は無料。申込み・問い合わせは長岡市企業振興課☎39-1222-1。





●野本誠一さん
(渡里町)

オペラが好きでよく聴いていますが、自分で出てみるとまた楽しい。それも、サマーズさんのような一流のプロの指導を受けると、たくさん得るものがありますね。「カルメン」にも出たんですが、「ボエーム」の方がむずかしいかな。東京ではオペラのチケットが高すぎます。こうして地方でオペラを安く楽しめるのは、本当にありがとうございます。

希望が丘小学校

- 松井智美さん(5年・左)
- 吉野理津子さん(6年・右)

—オペラってどんな感じ?
物語があるから、ふだん歌っている歌よりもおもしろい。それに、動きがあるでしょ。リズミカルだし、ゆかいになってくる。

—サマーズさんはどうだった?
英語だったけど、手とか体の動きを見るだけでもよくわかりました。教えて方がうまいのかな。

—思いっきりはしゃげる役なんでしょう?
おもちゃ屋さんが出てきて、みんなで喜ぶんです。そのときの衣装が一番楽しみ。早く着てみたいなあ。



この日の練習は、みつかり四時間。最後は、かなりいい線まで行きました。とりわけ、希望が丘小学校の子どもたちの勘の良さにはあらためて感心していました。

足そ。とりわけ、希望が丘小学校の子どもたちの勘の良さにはあらためて感心していました。

この日の練習は、みつかり四時間。最後は、かなりいい線まで行きました。とりわけ、希望が丘小学校の子どもたちの勘の良さにはあらためて感心していました。

足そ。とりわけ、希望が丘小学校の子どもたちの勘の良さにはあらためて感心していました。



●鈴木ちはるさん
(本町3)

音楽というより舞台美術が好きで。それに、前にミュージカルとかを見て、舞台の裏側にも興味があつたんです。裏方のスタッフは何をしてるんだろうって。舞台に上がる快感があるよう、裏方で舞台を支えることにやりがいを感じる人もいます。私はその後者の方。これから、いよいよ衣装とかメイクの仕事も出てくるので楽しめます。



●高橋純子さん(高見1)

市民がいっしょになって作り上げるものに参加してみたかったんです。歌はダメなんですが、舞台スタッフだったらおもしろそうと思って。客席では見れないところを見れるでしょ。

一つのものを仕上げていくときの現場の張りつめた空気っていうか、緊張感がたまらないですね。サマーズさんのリハーサルをビデオ撮りましたが、音楽が細かいところまでわかって、すごくおもしろかったです。

san francisco
OPERA

Puccini's

La Bohème



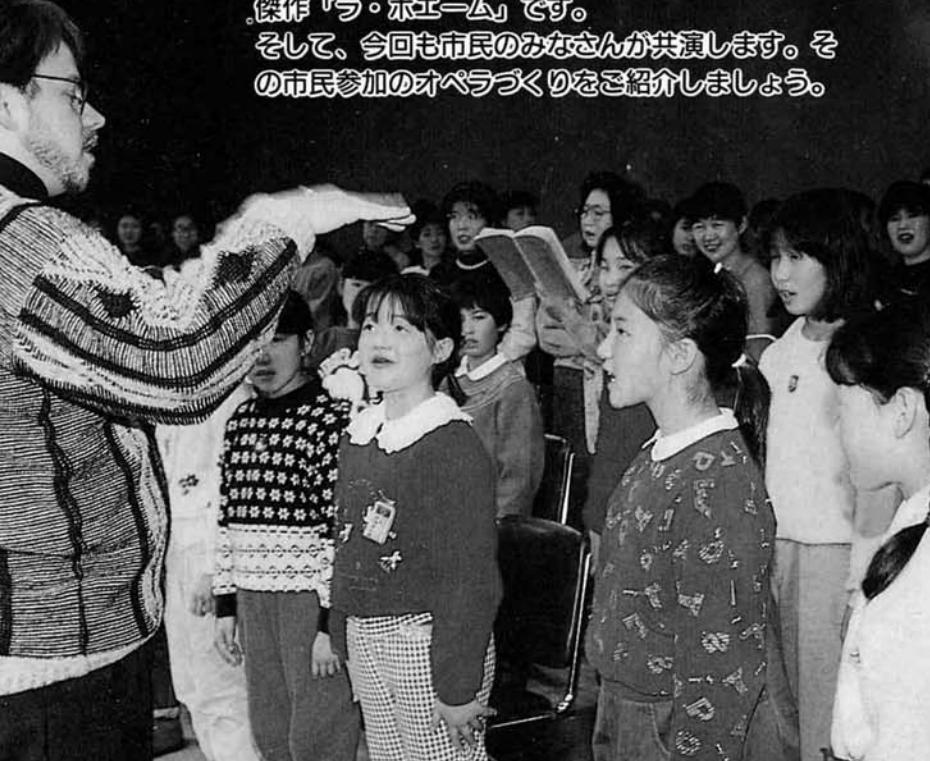
日米共同オペラ「ラ・ボエーム」
(日本語字幕付き)

いま、オペラがおもしろい

市民が参加するのは合唱と舞台スタッフです。これが、ほかの外來の公演とちがうユニークな点です。見るだけでなく、プロの音樂家たちと共同でオペラをつくる。そんなにたくな楽しみも味わえるというわけです。

合唱のメンバーは、一般公募した市民が約七十人、それに前回と同じ希望が丘小学校合唱部の子どもたち。さらに今回は、舞台スタッフ四人が加わりました。募集後、たちまち定員をオーバーするほどの人気ぶり。それだけ合唱のメンバーは、一般公募した市民が約七十人、それに前回と同じ希望が丘小学校合唱部の子どもたち。さらに今回は、舞台スタッフ四人が加わりました。

第三幕。特に第一幕前半では、パリの街などをぎわす市民や学生、子どもたちとして、舞台の主役になります。この場面は短いせりふ



2年前の「カルメン」に続いて、4月に再び、サンフランシスコ・オペラがやってきます。上演するオペラは、世界中で愛されているプッチーニの傑作「ラ・ボエーム」です。そして、今回も市民のみなさんが共演します。その市民参加のオペラづくりを紹介しましょう。



指揮者のサマーズさんに聞く――

「音楽は世界共通のことばです」



●パトリック・サマーズ
サンフランシスコ・オペラ・センター
音楽監督。上海音楽院との共同公演で
「トスカ」の中国初演なども手がけ、
現在、内外のオペラハウスにも客演し
ている。一昨年の「カルメン」長岡公
演での音楽性あふれる指揮ぶりは、ま
だ記憶に新しい。

「カルメン」に続き、今回も指揮をするパ
トリック・サマーズさん。プロのオペラ指
揮者としてめざましい活躍をしているサマ
ーズさんに、市民との交流やオペラのこと
について、お話をうかがいました。

ことばです

――またお会いできて、大変うれし
いです。
――こちらこそ。再び長岡に来れて、
うれしく思います。
――二年前の「カルメン」は、すば
らしい公演でしたね。
ええ、そうでした。市民の合唱が
初めてとは思えないほど良かった。
それで、ぜひ今回も共演したかった
のです。
――長岡の印象はどうでしたか?
市民のみなさんの交流パーティ
や悠久山公園の見学などが楽しい
思い出です。そうだ、お酒もおいし
かった。今でも、いつしょに来た歌
手たちの間で話が出ているくらいで
す。
――今回も、市民が参加しますが…。
今回も合唱のみなさんも、練習に
取り組む情熱がすばらしい。レベル
も高いですね。
特に、希望が丘小学校の子どもた
ちは、世界中のどのオペラハウスに
出ても恥ずかしくないほどです。サ
ンフランシスコへ連れて帰りたいく
りです。
――「カルメン」のときよりも、さら
に質の高い上演が期待できそうです。
――出演する歌手のみなさんは、ど
んな人たちでしょうか?
今回のメンバーは、すべてオペラ、
センターのよりすぐりの歌手たちで
あります。
私たち、国際的なオペラ歌手の
養成のために、毎年、全米七都市で
オーディションを行っています。音
楽大学などの卒業生が約千人も応募
してきて、その中からセンターに受
け入れるのは二十人程度。さらに、
そのうちの数名がオペラ・ハウスに
属して養成を続けることになります。
――今回の「ラ・ボエーム」は、ど
んなオペラなのでしょうか?
パリの下町に住む若い芸術家と美
しい娘との、はかない恋の物語です。
「カルメン」のような現実離れした
物語ではなく、現代にも通じるよう
な話ですから、受け入れやすいので
す。
――ブッチーの作品は、オペラとし
てはこれ以上ない高みにまで行き着
いた音楽です。「ボエーム」もその
一つ。だから、人々に与える感動も
大きいのです。
――オペラをはじめて聴く人に、ア
ドバイスをお願いします。
もちろんです。それはファンタス
ティック(すばらしい)です。
私たち、音楽という共通の「言
語」を通して、市民のみなさんと交
流したいと願っています。



ブッチーの作品は、オペラとし
てはこれ以上ない高みにまで行き着
いた音楽です。「ボエーム」もその
一つ。だから、人々に与える感動も
大きいのです。
――蝶々夫人は日本、「トゥーラン
ドット」は中国、そしてこの「ボエ
ーム」はフランスのパリと、それぞ
れの舞台になる状況をうまく表現し
ているのです。

「蝶々夫人」は日本、「トゥーラン
ドット」は中国、そしてこの「ボエ
ーム」はフランスのパリと、それぞ
れの舞台になる状況をうまく表現し
ているのです。

ブッチーの音楽は、登場人物の
感情だけでなく、置かれた状況をも
みことに描寫しています。例えば、
「蝶々夫人」は日本、「トゥーラン
ドット」は中国、そしてこの「ボエ
ーム」はフランスのパリと、それぞ
れの舞台になる状況をうまく表現し
ているのです。

――またお会いできて、大変うれし
いです。
――こちらこそ。再び長岡に来れて、
うれしく思います。
――二年前の「カルメン」は、すば
らしい公演でしたね。
ええ、そうでした。市民の合唱が
初めてとは思えないほど良かった。
それで、ぜひ今回も共演したかった
のです。
――長岡の印象はどうでしたか?
市民のみなさんの交流パーティ
や悠久山公園の見学などが楽しい
思い出です。そうだ、お酒もおいし
かった。今でも、いつしょに来た歌
手たちの間で話が出ているくらいで
す。
――今回も、市民が参加しますが…。
今回も合唱のみなさんも、練習に
取り組む情熱がすばらしい。レベル
も高いですね。
特に、希望が丘小学校の子どもた
ちは、世界中のどのオペラハウスに
出ても恥ずかしくないほどです。サ
ンフランシスコへ連れて帰りたいく
りです。
――「カルメン」のときよりも、さら
に質の高い上演が期待できそうです。
――出演する歌手のみなさんは、ど
んな人たちでしょうか?
今回のメンバーは、すべてオペラ、
センターのよりすぐりの歌手たちで
あります。
私たち、国際的なオペラ歌手の
養成のために、毎年、全米七都市で
オーディションを行っています。音
楽大学などの卒業生が約千人も応募
してきて、その中からセンターに受
け入れるのは二十人程度。さらに、
そのうちの数名がオペラ・ハウスに
属して養成を続けることになります。
――今回の「ラ・ボエーム」は、ど
んなオペラなのでしょうか?
パリの下町に住む若い芸術家と美
しい娘との、はかない恋の物語です。
「カルメン」のような現実離れした
物語ではなく、現代にも通じるよう
な話ですから、受け入れやすいので
す。
――ブuchiの作品は、オペラとし
てはこれ以上ない高みにまで行き着
いた音楽です。「ボエーム」もその
一つ。だから、人々に与える感動も
大きいのです。
――オペラをはじめて聴く人に、ア
ドバイスをお願いします。
もちろんです。それはファンタス
ティック(すばらしい)です。
私たち、音楽という共通の「言
語」を通して、市民のみなさんと交
流したいと願っています。

ブuchiの音楽は、登場人物の
感情だけでなく、置かれた状況をも
みことに描寫しています。例えば、
「蝶々夫人」は日本、「トゥーラン
ドット」は中国、そしてこの「ボエ
ーム」はフランスのパリと、それぞ
れの舞台になる状況をうまく表現し
ているのです。

「ラ・ボエーム」は泣かせるっていうけど、
どんな話なんでしょう? 今回の上演は、日
本語の字幕付き。とはいって、やはりあらすじ
くらいは知つておきたいもの。そこで、全幕
のあらすじと、見どころ、聞きどころをまと
めてみました。

「ラ・ボエーム」 あらすじ

●第一幕● 一八三〇年ころのパリ。
下町の屋根裏部屋。今日はクリスマス
イ・イ・アだといふのに、詩人のロド
ルフォと画家のマルチエルロは火の
氣のない部屋で空腹をがんばって創
作にはげんでいる。
――「ボエーム」とは、こんな気まな
生活を楽しむ芸術家たちのことだ。
そこへ、哲学者のコルリー・ネ、次
いで音楽家のショナールが食べ物を
持ってきた。みんなは大喜びで食へ
る。家賃の取立てに来た家主もつま
く追い返し、夜の街に繰り出す。
「ボエーム」は、こんな気まな
生活を楽しむ芸術家たちのことだ。
そこで、ロドルフォだけが原稿を書
いて、ドアをノックする音。「ろうそくの明かりを貢
してください」。入り口に一人の娘が立
っている。息を切らせて、気分
立ち立つ。

●第二幕● 街の通りは市民や学生
で大にぎわい。この暮開きは、盛大
な拍手で迎えたい。
――「ボエーム」街の通りは市民や学生
で大にぎわい。この暮開きは、盛大
な拍手で迎えたい。
バルビニョールといふおもちゃ屋
が現れ、大喜びの子どもたちがつい
て回る。それをしかる母親たち、街
はもう、クリスマス気分一色だ。
ロドルフォたちがいるカフェ・モ
ミュスに、派手に着飾った女性が金
持ちのバトロンと入ってくる。マル
チエルロが失恋した相手のムゼッタ
だ。彼女は、またもマルチエルロの
氣を引こうと、色気たっぷりにワル
ツを歌い出す。
「私が歩いていると、人は私を見
める。みんな私の美しさにみとれ
るわ。」

●第三幕● それからまた数ヵ月。
再び屋根裏部屋。別れた恋人が忘
られないロドルフォとマルチエルロ。
そこへショナールとコルリー・ネが帰
つてくる。みんなは元気を出そうと、
ダンスをしたり、決闘のまねことを
したりで大はしゃぎだ。

●第四幕● そこへ、大げんかをしたマルチ
エルロとムゼッタが店から飛び出して
くる。別れを悲しむ二人とののし
り合つ一人。二つの二重唱がいつし
かみごとな四重唱となり、いっそつ
聴く者の胸をしめつける。

'93サンフランシスコ・オペラ日米共同公演

ラ・ボエーム(全4幕)

〈日本語字幕付き〉

4/11 ㈯ 市立劇場大ホール
午後2時開演

指揮●パトリック・サマーズ

演奏●神奈川フィルハーモニー管弦楽団

合唱●長岡日米共同オペラ合唱団

入場券△ S席 7,000円／S席 6,000円／

A席 5,000円／B席 4,000円(発売中)

問い合わせ△ 中越音協 35-3051

市立劇場 33-2211

